

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する公開情報

研究機関名：筑波メディカルセンター病院

倫理審査承認日： 2025年11月7日
研究課題名：転移性椎体腫瘍に対する定位照射の検討
研究期間：倫理審査承認後～西暦 2030年3月31日
研究対象： 2023年以降に当院で施行した椎体定位照射症例
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（治療計画、診療情報） 上記材料の対象期間 西暦 2021年4月～ 2029年3月
意義・目的： <p>転移性椎体腫瘍は痛みや麻痺、圧迫骨折の原因となり、放射線治療が推奨されます。通常は、脊髄が耐えられる範囲（2G/回換算で 50Gy 未満）で照射を行いますが、近年ではこれらの腫瘍に Stereotactic radiotherapy（定位放射線治療：SRT）という手法を用いて短期に大線量を照射することにより疼痛緩和効果と局所制御効果が高いことが示されました。当院でも症例に応じて SRT を用いて治療しています。同時に、最近では治療方法の進歩により生存期間が延長し、一方で一回放射線治療を行った範囲がまた悪くなり、再照射を行う需要も増えています。このような症例については、 Simultaneous integrated boost（SIB）を用いた強度変調放射線治療（IMRT）という手法を用いて脊髄に悪影響が出ない範囲で SRT を行っています。これは、照射範囲の中でも治療強度の差をつけて、脊髄の線量を限りなく低減し、病変のある個所に有効な線量を照射する方法です。今回の研究では椎体の SRT のメリットを明らかにするために、治療効果を後方視的に観察し、解析を行います。また当院は椎体の SRT に特化した治療計画装置が導入されているので、他の治療計画装置上で同様の治療計画を作成し、治療で用いられた線量分布との差を検討するとともに、治療計画に関わる物理学的特性を明らかにします。</p>
方法： <p>本研究は後ろ向き観察研究です。患者さんに対する侵襲は一切ありません。当院で治療した転移性椎体腫瘍に対する放射線治療の効果を検討し、また当院で扱っている治療計画機器の優位性を他の治療計画機器と比べて検討します。学会・論文などに公表するデータは集計データであり、個人が特定されることはできません。また、本研究で得られた情報は、個人名・診察番号は記入せず個人が特定されないよう配慮します。なおこの研究への情報提供を希望されない場合には、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その患者様の情報は利用いたしません。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。</p>

問い合わせ等の連絡先

筑波メディカルセンター病院 放射線治療科

大城佳子（代表番号 029-851-3511）